

# すてっぴ

2010年9月号

【発行元】  
親子のベビー教室  
かたつむり教室  
幼児教室  
キッズピクス教室

## 運動会シーズン！秋もすぐに駆け抜けて

### しまうのかな・・・？



朝・夜の気温がぐんと下がり、過ごしやすい季節になってきましたね。しかし相変わらず日中は夏日。涼しい秋はいつになったらやってくるのでしょうか・・・？

9月に入り、各地で運動会が開催されていますね。小学生の頃、運動会のお昼ご飯は家族で食べていたのですが、私にとってはそれが楽しみの1つとなっていました。

青空の下、ビニールシートの上に大きなお弁当が所狭しと並び、おにぎり、サンドウィッチ、お肉やウイナーなどのおかずなど、好きなものばかりが並び、どれを食べようか悩んだほど！父母に祖父母、姉や弟、そしていとこや親戚たちと、運動会の話をしながらいワイワイと食べ、まるでピクニックに行ったかのような気分になりました。今でも毎年母が欠かさず作ってくれた好物メニューは覚えていますよ！（By. はるまき）



今月号のテーマは・・・

## ★ 夏のイベント報告号です ★

- 生後4ヶ月～3歳の赤ちゃんと保護者対象の『親子のベビー教室』
- 2歳半～未就園児対象の『かたつむり教室』
- 3歳～未就学児対象の『幼児教室』
- 小学生対象のダンス教室『キッズピクス教室』（今回もダンスクラブを掲載）



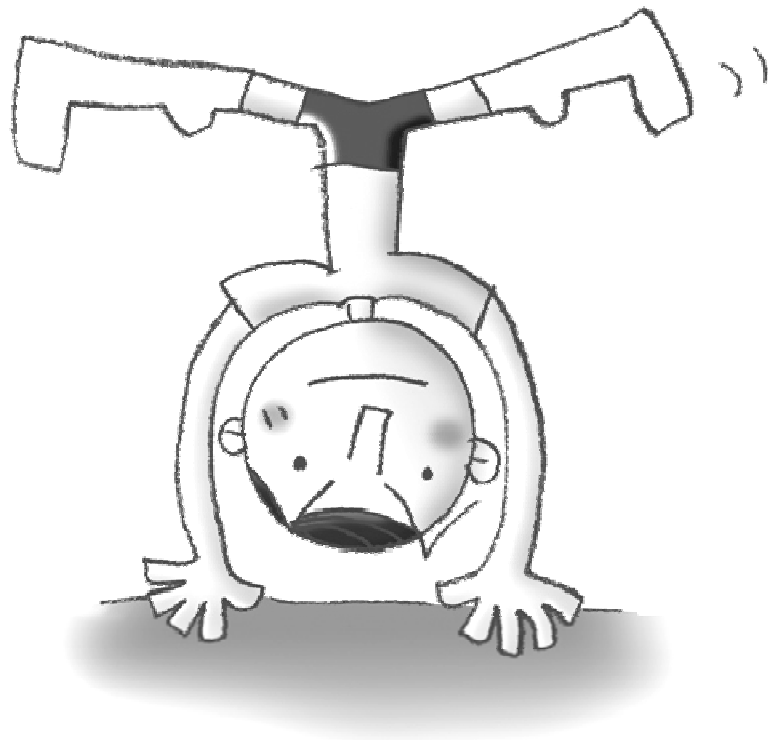
各教室でこの夏～今にかけて、実施されたイベントをご報告！

普段のレッスンだけでなく、特別活動やイベントを通じて、子ども達の成長を確認・応援しています。ぜひご覧あれ♪



# も く じ

親子のベビー教室紹介	…	3
かたつむり教室紹介	…	4
幼児教室紹介	…	6
キッズビクス教室紹介	…	8
みっきーおばばせんせいのちょっと聞いてよ!	…	10
各教室スケジュール	…	12
子育てサポーター紹介	…	13



# 親子のベビー教室



# お食事会開催!

普段はそれぞれが教室終了後にランチとなるのですが、今回はみんな一緒に昼食会を開催しました。

子育てに困ったことはない?

親子ベビー教室でリフレッシュしてる!

ウェルビでたわいもない話をして(^\_^)



私は断乳におっぱいに鬼さんを描いちゃった

2才半になるけどおしゃぶりがやめられないの...

卒乳のタイミングは?



母乳が大好きで離乳食が進まないの...



10月短期教室予告! \*参加者募集中\*

## 「妊娠前よりキレイな身体をめざそう!」

~プールの前に骨盤矯正プチトレーニング。最終週には水中骨盤矯正プログラム実施~

# かたつむり教室



## ☆ 特別授業紹介 ☆

責任者 藤田 真弓

### ★かたつむり教室特別授業とは

かたつむり教室では自分でできることをゆったりとした時間の中で応援し、楽しいと感じることを発見できる場の提供をしていきたいと考える教室です。普段はプール活動を主体に着替え・トイレトレーニング・遊び・水慣れを通して自分でできる能力をつけるお手伝いをしています。またプール以外の活動（8週目特別授業）として、プールから離れた環境の野外活動を取り入れています。外での季節を感じ触れることで思いっきり体を動かし、外遊び体験を通して楽しさいっぱい感じることで子供達の生活能力を試される場でもあると考えます。ひとりで頑張る体験、出来たときの達成感を味わい自信を少しずつ獲得していくことで親離れの準備段階の基盤を作ります。子供達の成長をお母さんと共に見守り、喜んで貰える楽しい活動を実施したいと考えています。



### ★今回7月の特別授業は、「ボディペイント」です

梅雨明けで夏の日差しが厳しい毎日の「ボディペイント」体験でした。いつものプールから屋外へ脱出し、きらきら青空の下で「ボディペイント」や水遊びを体験したお友達はとっても生き生きとした表情で楽しんでいました。手形や足形を紙や体にぺたぺたと楽しそうにやっている子、苦手だなあと嫌そうに見ている子など曜日によって様々な子供たちの行動や様子が見られたようです。私たちは、この「ボディペイント」の活動を実施する中で「汚れること」「汚いこと」を極端に嫌がる子供達が増えてきていると感じました。外での遊びが不足していること、汚れることへの敏感さが理由ではないでしょうか。私の子供の頃は、砂と水は必須アイテム。泥んこ遊び、花や葉っぱの汁などでよく遊んだものです。雨上がりの水溜まりも大好きで・・・靴も足も泥んこでした。（入るなど言われればよけいに入りたくなりますよね）何年か前にウェルビのイベントで「親子潮干狩り」に行って「砂がつくからいや」「足が汚れる」と言ってなかなか砂浜に下りない子ども達を見ました。普段汚れることへの体験・経験がないんだと思いました。（汚さないと言うほうが多いかも・・・）だから素足でのいろんな感触を体験させたいと考えました。いろんな遊びをしたら服や手足は汚れるものです。汚れたら洗えばいいのです。そんなことを気



にしないで夢中になれる遊びを見つけてほしいと考え「ボディペイント」と名をつけ泥んこ遊びの第一歩の絵の具遊びを提供しました。絵の具を手で触る感触、裸足で歩く感触、いつものプールではない水の感触を味わって貰いたいと考えました。最初は戸惑ってしまう場面が見られましたが、お友達の様子を見たり、大人と一緒に遊ぶことで子ども達自身も大胆に変身していきました。暑い日差しの中見学していたママたちも目を細めて子ども達を見守ってくれました。汚れを気にせず思いっきり遊べる子供達になって貰いたいとかたつむり教室では期待しています。お家ではなかなか出来ない遊びを提供していきたいと考えています。お家でも服や手足が汚れても平気になったかもしれません。そんな時は「洗ってあげるね」と苦笑して答えてあげて下さいね。お願いします！！



初めてのドロドロバタバタに  
逃げ出すお友達も



いつもと違うプールは楽しいね



色水作りに挑戦！



色水に染まったプールで  
ジュース屋さんごっこ

### 【22年度特別授業予定】

- 4月 スポーツの森で遊ぼう
- 7月 ボディペイントで遊ぼう
- 9月 乗馬クラブヘミニ遠足（乗馬体験）
- 11月 平成子どもの森探検（おにぎり遠足）
- 1月 3週授業の為実施しません
- 3月 幼児教室体験



## 幼児イベント

# 乗馬遠足 & 蹄鉄のアンティークリース作りにチャレンジ

報告者 米田小百合

今年の夏は猛暑の日々が続き、テレビニュースにおいても熱中症の事ばかり耳にしました。今回のイベントにおいても子ども達が熱中症にならないよう休憩を挟みながらのスケジュールでの活動となりました。暑さに負けず全力で1泊2日の活動のをこなした14人の子ども達の活動記録です。

### ★ 乗馬までの道のりで・・・

7月31日 午後13時。ウェル・ビちびっ子広場に集合。14人の子ども達がお母さんに連れられて元気にギャラリーへ登場。子ども達は勿論暑い中ウェル・ビに足を運んでくれた保護者の方に感謝です。初めてのお泊まり会参加のゆうとくん、しゅんやくん、は



初めてとは思えないくらいのテンションでずっと身体を動かして活動においても先頭を切って歩いたり、走ったりを繰り返しながら乗馬まで歩いて行くことが



出来ました。乗馬を目標にかりんちゃん、しょうげんくん、みずほちゃん、あおいちゃんは、よしみ先生ともくもと歩き、草やトンボに興味を持って観察していました。なおこちゃん、あんなちゃん、まさむね君はマイワールドいっぱいに歌を唄ったり、まさむね君は私に「かまぼこ」の出来るまでを教えてくださいました。ひかりちゃん、なおこちゃんは純子先生の歩く後ろをトコトコついていったかと思うと急に走り出したり、黒いトンボに引き寄せられるかのように採りにったりと後ろの方で頑張っていました。そして、元気なしょうごくん、たいしくん、たくとくん、たからくんはスポーツの森のテニスコートの近くの広場で圭先生とバッタの捕獲に集中していました。本当に暑い中でしたがよく頑張って乗

馬まで歩いてくれました。

### ★乗馬活動馬の足にも 前足？後ろ足？

乗馬では休憩をしたあと、子ども達は自分達の持ってきた人参やキャベツを

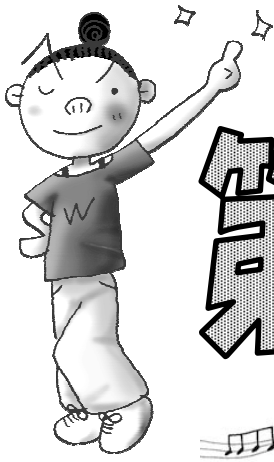
あげる事にしました。乗馬のお兄さんがポニーの「はちべい」「アイーン」を外につれてきてくれて子ども達のテンションはアップです。人参を口もとに上手に運べる子、途中で投げてしまう子と様々ですが興味津々で馬の様子を観察していました。勿論馬の怖い子ども達は先生と一緒に餌をあげる事にチャレンジしてもらいました。一度餌をあげる事が出来るとわかると少しずつ餌をあげる事が出来ました。途中でプールでの活動のリース作りに使う蹄鉄の話になり子ども達が「先生、馬にも前足、後ろ足があるの」と私に質問してくる場面もありました。乗馬のお兄さんに聞いてみるとやはり前足む、後ろ足はあるそうです。子ども達は「へえ～」と感心していました。馬の靴の役割の蹄鉄も2ヶ月ぐらいで変えるようです。子ども達にとったら大変勉強になった事だと思います。



#### ★子ども達のリース作りから見た表情は？

リース作りにおいては子ども達の創造性に目を向けて取り組みを行ってきました。子どもの創造性は素晴らしいものがあります。用意した飾りはスパンコールとモールそれだけで子ども達のリースは素晴らしいものになりました。お母さんに「お土産」と言いながら飾り付けをする子ども達の顔は何とも可愛く、真剣でした。お母さんに喜んで貰う為に、UHOをイメージした子、お母さんの好きなハートのスパンコールを一杯小さい手でたくさん付けた子、全部大好きなお母さんのお土産です。出来栄えは見ての通りでしたが確実に子ども達の納得のいく作品になりました。最後にリボンを飾り、お母さんが迎えに来たとき子ども達は自分の作品をお母さんに自ら手渡しました。時間のかかる作業ではありましたが、コーチに「これ付けたら可愛い」「この色使うときれい」と尋ねながらしっかり考えて活動が出来ました。今後も幼児教室のイベントにおいては子ども達に「チャレンジする」「自分で考える」を頭に入れて楽しいイベントを開催出来たらと思います。





2010年8月21日(土)開催

# 第12回夏の音展

ダンスクラブ・出演報告

報告者 中島悠



去る8月21日(土)第12回夏の音展『ナツオト12~12才の夏・挑戦~』というイベントが水口碧水ホールロビーで行われました。このイベントは『大人の音の祭典』がコンセプトで、主に甲賀市で活動されている音楽バンドやアコースティックギター演奏、ダンスチームなど総勢20組が出演しました。ウェル・ビの中学生・高校生のダンス教室『ダンスクラブ』もチーム名『vivid punch (ヴィヴィット パンチ)』として出演してきましたよ♪

## ●12才の夏・挑戦

これは、今年の夏の音展のサブタイトルなのですが、まさにダンスクラブにふさわしいタイトルでした。それは、5月よりさらちゃん、あんなちゃんが新たにメンバーとして加わり、4人になった、できたてホヤホヤのチームだったからです。

2人は小学生の時にキッズビクス教室に通ってくれていた、いわゆるキッズビクスOGさんで、音楽に合わせて踊ったり、リズムに合わせて踊るのは平気でした。しかし、慣れない難しい振り付けやステップなどがあり、以前からのメンバーと同様に踊ることは、本当に本当に大変だったと思います。



## ●4人そろって、はじめて vivid punch になる

練習では以前からのメンバー、しおちゃん、みほちゃんにリードしてもらおうようにして、2人のサポートをお願いしました。時には2チームに分けて、解らないところを聞き合ったり、繰り返し練習し合ったりして、メンバー同士で話し合ったり、解決し合い、どうしても出来ないときには、私がサポートするようにすすめていきました。

そして時には演出の確認として、メンバー同士でダンスの見せ合いっこをし、辛口コメントを言い合う場面もありました。『しおちゃん、手が下がっているよ』『あんなちゃん、この振り付けまちがえてるよ』

第12回夏の音展 —夏の音展は大人の音の祭典です—

## ナツオト12

### 12才の夏 挑戦!

2010 8/21(土) 碧水ホール ロビー 0748-63-3006

開場 10:30 開演 11:00 入場料 300円 (17歳以下半額)

楽音演 書絵映

子丑角卯 戌亥辰巳 酉申未午

ボクラひまわりスピーカー

フリーコート 2nd Time Cafe mitaki shoten etc. 8月10日から21日(金曜祝日)までの期間、絵、写真、書、楽音などの展示コーナーも設置!

フリーイベント 8月17日(水) 18日(木) 19日(金) 21日(日)の4回開催予定。それぞれ19時以降の時間限定で、ロビーライブ開催予定!

http://natuoto.com 夏の音展事務局 0748-63-3362



『みほちゃん、目線が下を向いているで』『さらちゃん、動きが小さいよ』などと、決して悪口ではなく『しおちゃん、さらちゃん、あんなちゃん、みほちゃんの4人の演技がそろって、はじめて vivid punch になる』という思いが強かったからです。

#### ●4人が1つになった日

前日のリハーサルを終えた後、私は『いよいよ明日やな・・・』と、ちょっぴり緊張ぎみでした・・・しかし、皆の表情は晴れやかに見えました。『明日やなあ・・・ワクワクするなあ♪』と、むしろこのイベントに出演することを楽しみにしてくれているようでした。それは、『自分達のダンスが、おうちの方や他の人たちにどう評価されるのか』という反応を楽しみにしているようにも見えました。

そして、本番。他のダンスチームと一緒に、オープニングより出演！たくさんの観客に見守られながら vivid punch らしい、かわいくて、ちょっぴり大人っぽいヒップホップダンスを見せてくれました。出演が2回あり、2回目は夕方の16:20~の出演だったのですが、その時にはキッズビクス教室金曜クラスに通う、しのちゃん、のあちゃん、かのんちゃんも応援に駆けつけてくれました。最前列で、中学生・高校生のお姉ちゃん達のダンスを見て3人も『よかったー。』『扇子を持って踊るのカッコイイね。』と感想を聞かせてくれました。他のダンスチームの方々も『よく踊りこめていて、よく揃っていた』『メンバーの雰囲気伝わってくるような、キュートなダンスだった。』と誉めて下さり、『次に会うときには、今のダンスがどんな風に成長しているか、楽しみにしているよ』とまで、コメントしてくださいました。



#### ●ダンスは自己を表現する手段

ダンスは一種の『自己を表現する手段』だと考えています。一見1つのチームとして、まとまりがあるように見えても、実は個々に自分が表現したいように演出することができます。もちろん筋肉量や柔軟性など個々の体質も関係しますが、同じステップ・振り付けでも、『自分はかっこ良く表現したい』『私はやわらかい雰囲気で表現したい』と自由に『自己を表現』できるのが、魅力なのだと思います。



そして私は、単にダンスの振り付けを考える先生としてだけでなく、『こう表現したのだけど、どうすればいいかな』や『こんな雰囲気で踊りたい』など、子ども達が『自分らしいダンス』が踊れるように、これからもアドバイスしていきたいと考えています。

次は12月の発表会へ向けて、さらにステップアップを目指そう！！

# ウェル・ビの親子のベビー教室誕生秘話

プールを出会いとした育児の楽しみ方を提案したい

常務取締役 中村美紀子

都会では一駅に複数のスイミングクラブやフィットネスクラブが競合しあっています。私達の住んでいる田舎町でも各町に一つの温水プールが公営、民間をとりまぜて設けられる時代になりました。そんな時代の中で、いまから20年前親子のベビー教室を開設するときの裏話を今回はご紹介したいと思います。



## ●これで良いの？水の中でのベビーちゃんとお母さん

まず、最初の仕事は他のスイミングクラブのベビー教室の見学でした。当初から、スイミングクラブは誰にとっても楽しい場所ではなければならないとの信念から、他のスイミングクラブのベビー教室を眺めると、これは真似をしてはいけない、というのが大方のスタッフの共通の感想でした。中には「あれはベビー虐待ではないか」と言い出す程でした。『お母さんが一番のコーチです』が原則ですが、私たちが見学したスイミングの中には化粧をしたままのお母さんがいたり、コーチの指示のままにベビーだけを潜らせたり、飛び込ませたり、泣こうがわめこうが一行に頓着しないお母さんの姿がありました。果たしてお母さんはそれで楽しいのだろうか、ベビーは水を嫌いにならないのだろうかという疑問が生まれたのです。



果たしてベブースイミングとはいったい何なんだろう、とスタッフ間で相当論議することになりました。しかし、私達はその時点で科学的な根拠を整理するにはあまりにも勉強不足でした。当時唯一、頼りになったのは私達スタッフが水が好きで、泳ぎが好きで、自分の子どもがベビーだったら一緒に入りたくて、そんなベビーの喜ぶ顔を見たら、自分が母親であることの嬉しさを感じるということでした。「我が子をあれだけ虐待出来るのは母親が水の中での苦しさを知らないからではないか。母親が水の中で苦しい体験をしたらベビーに優しくなれるのではないか」といった乱暴な意見も出ました。しかし、『お母さんが一番のコーチです』を合い言葉にするならば、お母さんには水を知ってもらいたいという思いはスタッフ全員が一致したのです。お母さんに苦しい思いをさせるのではなく、私達の実感としてお母さんは水を絶対に好きになるし、気持ちいいし、楽しいはずだと考えたのです。お母さんがそう思えたら、お母さんは素直にベビーにその快適さを伝えてあげたくなるはずだと考えたのです。

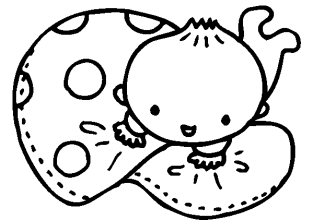
## ●誰のためのベビー教室なの？

次の疑問は、入会を申し込むのはベビーではないという単純な事実でした。お母さんはベブースイミングに何を求めておられるのだろうかという事でした。まさか、ベビーから泳がして将来水泳選手にさせたいと考える方は少ないのではと考えたのです。また、過去にベブースイミングをしたことのある何人かの説明では、一口で言えばぼんやりとした育児不安でした。こう考えると謎は解けてきました。実はこの教室の一番の対象者はお母さんだったのです。お母さんの個々に抱える育児不安に対してどのように応えてあげればよいのかという事なのです。それも取り立てて、これがというのではなく、お母さんとベビーが水の中で楽しく関わることで、ベビーの安心を生み、むろん元気にいきいきと成長されることでかわいい笑顔に出会うとそれが漠然とした育児不安を取り除くのに効果的だと思えたのです。そして、お母さんが不安なくベビーに接するとますますベビーは快適に違いないと思えたのです。ですから私達の開設する教室は親子のベビー教室であり、ベビー教室ではなかったのです。そして会費も親子2人分という設定になったのです。

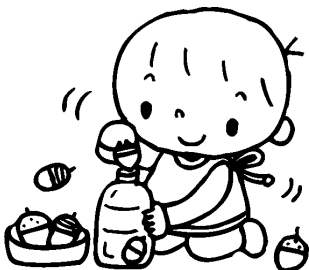


## ●他社比、会費2倍の大きな理由

当クラブの親子のベビー教室の会費は、隣のスイミングスクールの会費の約2倍の料金です。会員は集まるだろうかと不安はありましたが、基本の考え方が違うのだから譲れないと勇気を出して設定しました。それでも嬉しいことに第一回の募集で10組もの会員が集まってくれました。この人達を絶対満足させなければならない、とスタッフ全員が全力を傾けました。



トレーニングルームではキーボードを持ち込みリズム遊び、親子体操。赤ちゃんがスタッフから1人ずつ名前を呼ばれて、いつの間にか手を挙げ返事をしてくれると、スタッフからもお母さん方からも大きな拍手です。プールの中では親子でスキンシップ。「高い高い」や抱っこしての歩行、セーフティフロアを利用しての滑り台。お母さんと一緒に潜りっこ。ベビーよりお母さんに潜ってもらう方が多いくらいです。中には機嫌が悪くなる、お母さんの指示に従いたくないベビーも出てきます。そんな時はスタッフからは「お母さん無理させないで」と声をかけ、機嫌がなおるのを待ちます。ある子ができることを自分の子ができないと焦るお母さんもいます。そんな時は「焦らないで、今これが出来ないという、たいしたことではありません」と勇気づけます。



教室終了前20分間はベビーはコーチが預かり、他のベビーと一緒にプールサイドで遊びます。その間お母さんには泳法レッスンです。この時もお母さんから離れないベビーには無理には離しません。その分泳ぎたいお母さんには欲求不満が募るのですが、「赤ちゃんのためにちょっと我慢してあげてください」と声をかけます。中には1年間ぐらいベビーを背中に乗せて「親がめ子がめ」の格好で練習をした人もいました。ベビーが離れてくれたお母さんはこの時と

ばかり泳ぎに集中します。当初は運動不足解消を兼ねて泳ぎを覚えていただければと考えていましたが、泳力向上への意欲は遅く、たった20分をさも貴重な時間のごとく集中されます。ですから泳力向上は大変早く、インストラクターにならないかと誘うお母さんも随分増えました。

水から上がると併設の喫茶室でのお食事会となります。喫茶室のスタッフが小さな子ども向けに開発してくれたメニューのおかげで、ベビー達には練習後の楽しみなのです。お母さん方は食事をしながら育児の経験交流です。時々スタッフも一緒になって昼食します。その交流が次の教室での親密さを加えるのです。

4ヶ月に1回ぐらいは親睦会としてお食事会をします。この時も喫茶室が特別メニューを作ってくれます。そしてスタッフとお母さんが様々な意見交換をするのです。

## ●お母さんと子供さんに安心して楽しめる場を

こうして2年間で50組を超える大きな教室になりました。お母さんが妊娠をしたとか、転居とかの事情以外での退会は少なく、満3歳まで続きます。満3歳を超えるとベビーはかたつむり教室へ、そして幼児教室へ、お母さんは成人教室やスタジオ会員さんへと変わって、生活の一部として水泳を楽しんでおられます。



こうした親子のベビー教室の広がり背景は、ひとつは核家族化、ふたつは情報の氾濫などによるお母さんの育児不安があるようです。そしてこうして長く続けていただけたのは、私たちが育児不安の回答として、しつけを排除し、親子での遊びを重視してきたのが良かったのではないかと考えています。かつ何よりも育児期間、お母さんが解放され、楽しめる環境が少ないことに応えることが出来たからではないかと考えています。ここにも水の素晴らしい力を感じています。とりわけ子育て経験のあるインストラクターを多く配置させたこともお母さんを安心させ、優しく子どもとスキンシップしていただけたように思います。

私たちは、常に少々大げさかもしれませんが、「詐欺をしないこと！」をモットーにしています。各クラスそれぞれ、何に商品価値があるのか、何に私達の労働価値があるのか、絶えず自分達に問いかけながら仕事をしています。

